



内水面研究所試験研究公開デー開催



8月2日(日)十和田市奥入瀬河川敷において、法人になって初めての内水面研究所の試験研究公開デーを開催しました。奥入瀬クリーン対策協議会(畑山親弘会長)が行っている奥入瀬川の清掃活動と協賛して行いました。当研究所のブースでは、研究の概要を集約したパネル展示、水槽を使った淡水魚展示、シジミ釣りゲーム、パンフレットの配布を行いました。内水面研究所が提供したニジマスを使用してニジマスのつかみどりコーナーでは、子供達に加わって大人の方々も歓声を上げていました。当日小雨の降る中にもかかわらず、十和田市民600名が参加し大いに賑わいました。



研究所の業務内容パネル展示



イトウ、ニジマスの展示水槽

平成21年度「青森県豊かな海づくり大会」開催



10月26日(月)青森市水産ビルにおいて「青森県豊かな海づくり大会」が開催されました。大会実行委員会坪田副会長の開会のことば、植村大会実行委員会会長の主催者挨拶、青森県知事(青山副知事)の来賓挨拶、青森県水産大賞(新深浦町漁協の熊谷タマエさん、大間越漁協の大間越漁業研究会)の表彰、青森県漁業士会伊勢田啓二漁業士、青森県漁協女性組織協議会富田玲子理事による浜の声発表、大会実行委員会西崎副会長の大会決議、三津谷大会実行委員会監事の閉会のことばで終了しました。

(写真は、青森県水産大賞を受賞された2名を囲み関係者との記念撮影)

平成21年度青森県魚類防疫会議開催

8月26日(水)十和田市南公民館において平成21年度青森県魚類防疫会議を開催しました。内容は、内水面研究所から平成20年度養殖衛生管理体制整備事業の結果、平成21年度の事業計画について、平成20年度の内水面、海面の魚病発生状況、魚病関係の情報提供等の話題があり、青森県魚類防疫会議委員間で意見交換を行いました。次回の魚類防疫会議は、委員方式ではなく関係する養殖漁業者、ふ化場関係者にも集まってもらい自由に意見交換する場となるように検討していくことにしました。



出席者は、水産振興課、八戸水産事務所、むつ水産事務所、青森地方水産業改良普及所、鱈ヶ沢水産事務所、栽培振興協会、県営浅虫水族館、県内水面漁業協同組合連合会、県養殖協会、水産総合研究所、内水面研究所の魚類防疫会議委員です。

平成21年全国湖沼河川養殖研究会(第82回大会・岐阜県)



9月3日、4日の2日間、岐阜県岐阜市において平成21年度全国湖沼河川養殖研究会が開催されました。この研究会は、全国の内水面研究機関、地元の内水面漁協、養殖業者が一同に集まり、河川湖沼の内水面漁業、環境保全対策の取り組み等についてのシンポジウム、基調講演、話題提供、研究発表が行われました。来年度は、お隣の秋田県で開催されます。

ニジマスの早期採卵による発眼卵配布



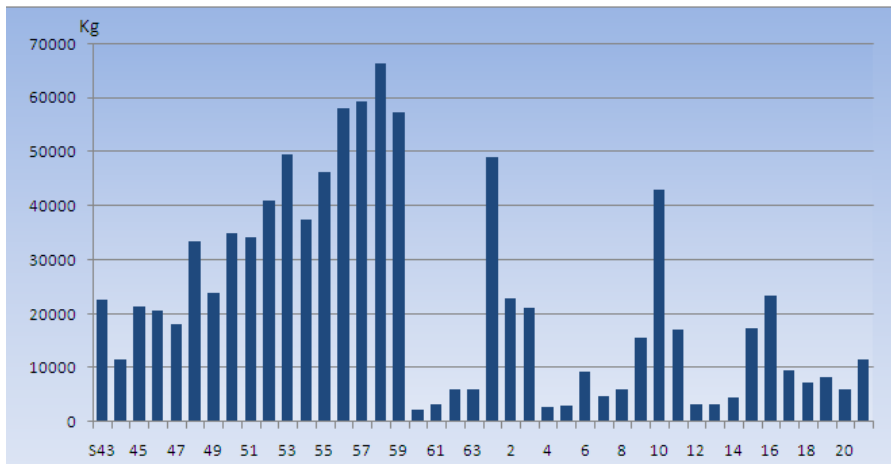
全雌三倍体ニジマス

今年の早期卵は、6月22日に始まり8月11日まで、延べ10回に渡って採卵を行いました。昨年の12月13日から約3ヶ月間の長日処理、その後の短日処理を経ての採卵となりました。採卵した50万粒の発眼卵は、県内の各養殖業者に8月中にすべて配布されました。(生産管理部沢目技能技師)

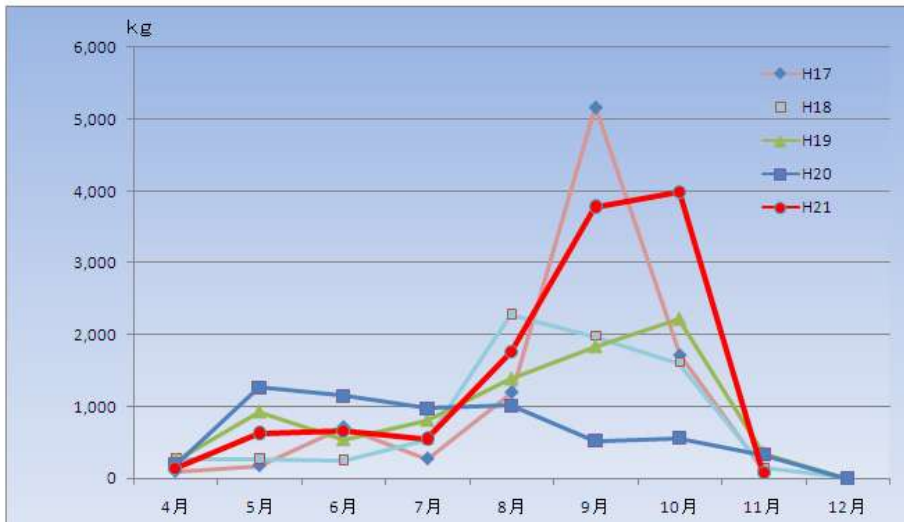


平成 21 年の十和田湖ヒメマスの漁獲状況

調査研究部 主任研究員 相坂幸二



ヒメマスの漁獲量の推移（昭和 43 年から平成 21 年）



ヒメマスの月別漁獲量の推移（平成 17 年から 21 年）

（漁獲データは十和田湖増殖漁協集荷場とりまとめ）

平成 21 年のヒメマスの漁獲量は 11 月末で 11.6 トンと昨年比 192% と好調に推移しました。ワカサギの漁獲量は 16 トンで昨年比 76% となっています。ヒメマスの餌であるハリナガミジンコが 8 月以降大量に発生したことから、10 月に行った刺し網調査で漁獲したヒメマス、ワカサギの胃内容はミジンコで膨らんでおり、例年になく魚体重も増加していました。

トピックス：水産業協同組合法施行 60 周年記念式典において松尾千代志青森県内水面漁業協同組合連合会会長が農林水産大臣感謝状を授与される。

全国内水面漁業協同組合連合会では、6 月 24 日（水）東京都三會堂ビル石垣記念ホールにおいて、水産業協同組合法施行 60 周年記念式典を挙行し、併せて永年にわたり、斯界の振興発展に尽力された内水面漁業関係者 1 団体 83 名に対し顕彰を行いました。式典当日は、山田修路水産庁長官をはじめ、中須大日本水産会会長ほか関係団体など多数の来賓を招いて盛大に挙行されました。農林水産大臣感謝状を授与されたのは 1 団体、および個人 1 名、水産庁長官感謝状 16 名、全国内水面漁業協同組合連合会会長表彰状 66 名です。栄えある農林水産大臣感謝状（個人 1 名）を青森県内水面漁業協同組合連合会松尾千代志会長が授与されました。その他、青森県からは、青森県内水面漁業協同組合連合会の小野 薫氏が都府県漁業協同組合連合会の部から、漁業協同組合の部から十三漁業協同組合の工藤伍郎組合長が全国内水面漁業協同組合連合会会長表彰状を授与されました。（全国内水面漁業協同組合連合会機関誌ぜんない第 13 号から一部抜粋）受賞された皆さんおめでとうございます。



（写真は全国内水面漁業連合会事務局から提供）

平成 21 年今季のサケ来遊状況（11 月末まで）

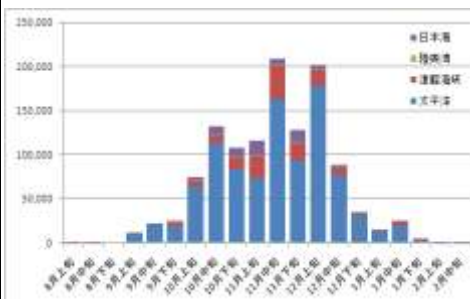
調査研究部 主任研究員 相坂幸二

平成 20 年度の河川捕獲尾数は、太平洋側が前年比 60%（9.4 万尾）、津軽海峡が 110%（2 千尾）、陸奥湾（1.6 万尾）及び日本海（9 千尾）とも 50% となり、県全体では前年比で約 60% と低迷しておりました。

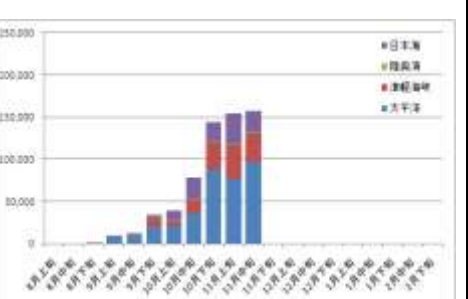
平成 21 年の各地域の河川捕獲尾数は、太平洋側、日本海側で 10 月中旬から、陸奥湾では 11 月上旬から捕獲尾数は増加し、11 月中旬で昨年の 4.5 万尾を大きく上回り、9.9 万尾（前年同期比 219%）となっています。

一方、沿岸漁獲尾数は太平洋で 35 万尾（昨年同期比 63%）、津軽海洋 13.2 万尾（136%）、陸奥湾 0.2 万尾（105%）、日本海 12.4 万尾（268%）と太平洋で大きく漁獲量が減少しています。

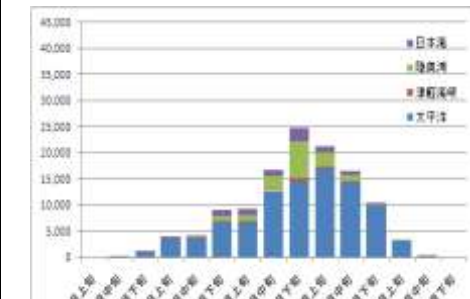
（独）東北区水産研究所の今年のサケ来遊予測では、太平洋沿岸の漁獲量は昨年度をやや下回る来遊予測となっていました。今年は過去最高の大型クラゲの出現が追い打ちをかけ、漁獲量減少の要因となっているものと思われます。今後 12 月に期待したいと思います。



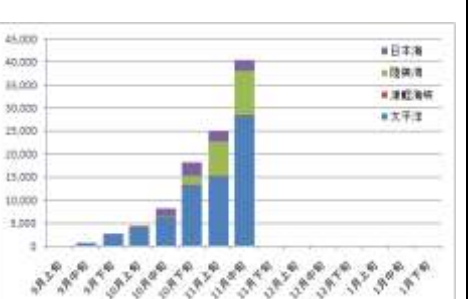
平成 20 年の沿岸漁獲数量



平成 21 年の沿岸漁獲数量



平成 20 年の河川捕獲尾数



平成 21 年の河川捕獲尾数

（漁獲データは水産振興課のさけ速報から引用）

トピックス：小川原湖にマリモ発生



宝の沼小川原湖



小川原湖のマリモ（直径 3~5 cm）

平成 21 年 10 月 28 日撮影



大量に湖岸に打ち上げられたマリモ

平成 21 年 11 月 5 日撮影

シジミガイ、シラウオ、ワカサギなど全国的にも漁獲量トップクラスにある小川原湖で、昨年に引き続き、マリモがこの秋に大量に出現しました。小川原湖のマリモの発生のメカニズムについて今後、究明していきたいと考えています。

「日本一旨い さくらます資源造成実証事業」について紹介します。

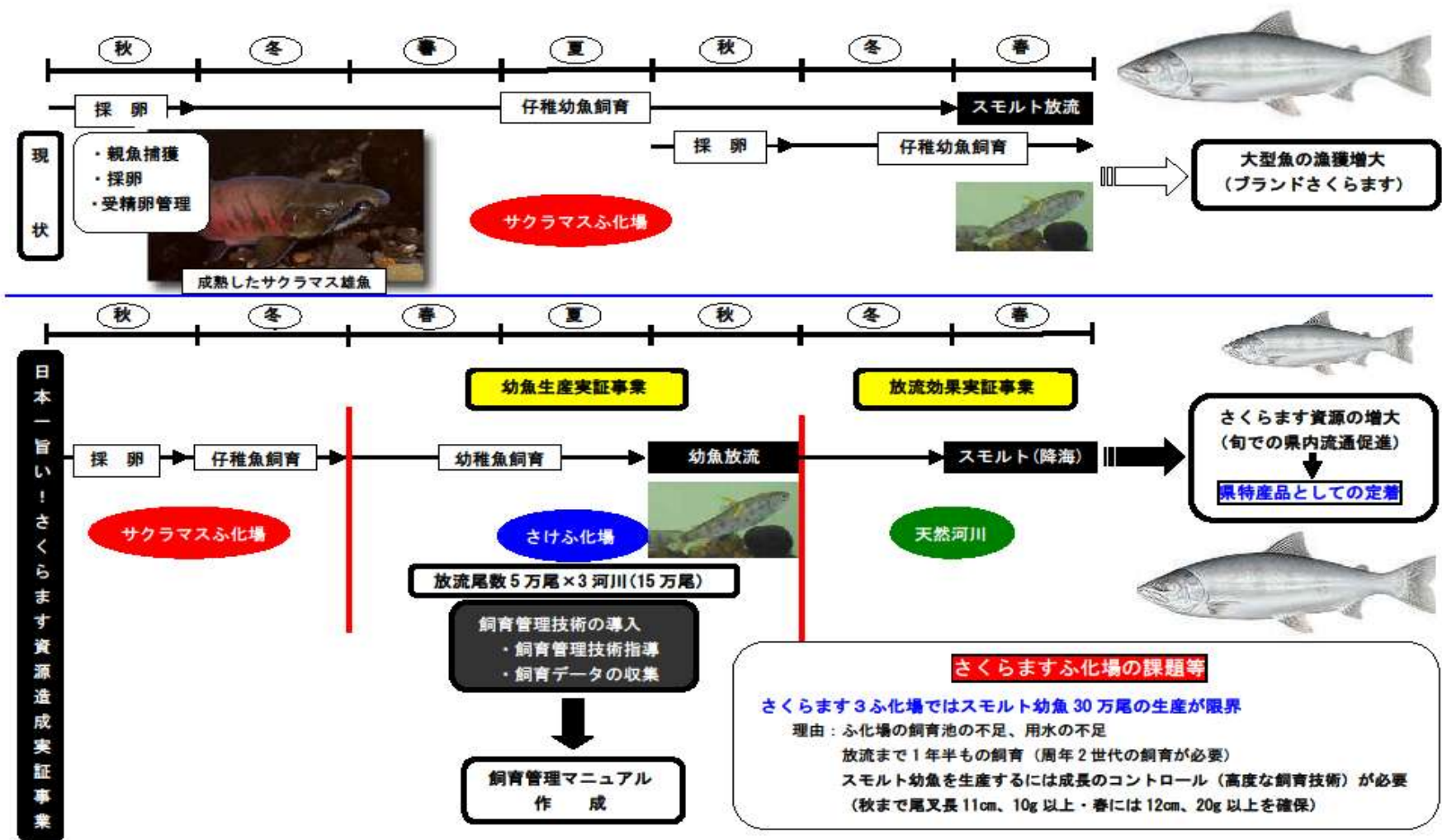
青森県のサクラマス漁獲数量は、北海道に次いで全国2位となっています。しかし、年々減少傾向にあり、平成元年に415トンの漁獲があったものが、平成17年には172トンまで減少しています。内水面研究所では、平成20年度から県の委託事業で、放流尾数の増加と既存施設の有効利用を目的として、大畑川、奥入瀬川のサケふ化場の飼育池が空いている期間を利用した、サクラマス稚魚の飼育と放流を行っています。また、従来1年半飼育し春に放流していたスマルト放流を1年間に飼育を短縮し、秋に放流する幼魚放流による経費削減についても検討しています。

放流後のサクラマス個体識別のために標識を付けて放流し、放流後の移動分布、成長過程、スマルト（銀毛）化の進行状況及び降海時期などを把握するための追跡調査を行っています。その結果、秋季放流魚でも水温が上昇し始める翌春の4月上旬から5月上旬にかけて体重が増加するとともにスマルト化が進行し、5月下旬頃には、殆どのスマルトが降海していることを確認しました。

降海したスマルトは、日本沿岸を回遊し、約1年後には生まれた川を目指して回帰し、産卵のため遡上して来ることが期待されます。

今後、当研究所では、1年半かけて飼育した春季放流魚（1+スマルト放流）と今回実施した飼育期間を短縮した秋季放流魚（0+幼魚放流）の海面漁獲状況や河川捕獲状況を比較し、各河川の効率的・効果的な放流手法を検討していくことにしています。

日本一旨い！さくらます資源造成実証事業の概要



わかりやすい魚病シリーズ（2）【寄生虫症】きせいちゅうしょう

【寄生虫症について】

一言に寄生虫症と言っても、様々な種類の寄生体によって引き起こされる病気です。わずかに数ミクロンの原生動物から数十センチに及ぶヒルの仲間であり、淡水域、汽水域、海水域で発生し、種類によっては養殖魚等に大きな被害をもたらすことがあります。今回は淡水域で増養殖されているサケ科魚類やコイ科の仲間が発生する代表的な寄生虫について紹介します。

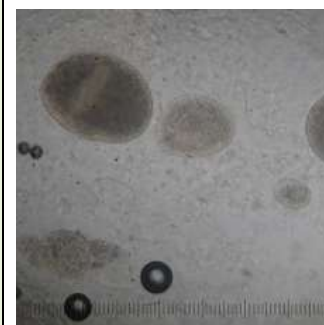
キロドネラ（写真1）は主に鰓に寄生し、鰓上皮細胞の肥大や鰓弁を癒着させることで呼吸障害を起こさせ、最悪窒息状態で死に至ります。トリコジナ（写真2）は体表や鰭などに寄生、繊毛運動や摂餌行動が魚に対して過剰な刺激を与えることで死亡に至らせると考えられています。白点虫（写真3）とギロダクチルス（写真4）は寄生虫の中でも厄介者で、皮膚の中に入り込む白点虫、鉤状のもので体表に固着するギロダクチルス、いずれも駆除が難しい種類の寄生虫です。これらの寄生虫に寄生された魚は、虫を落とそうとするため、水面を飛び跳ねたり、池の壁面に体を擦る行動を取ります。この異常な行動をいち早く見つけ治療することで被害を最小限に食い止められる。もし発見が遅れば寄生虫だけでなく、細菌やウイルスによる二次感染で全滅の危機を招く可能性もあります。寄生虫の侵入を完全に食い止めることは不可能なことです。日常の飼育管理（適度な注水量、清掃、消毒）の徹底を図り、寄生虫が魚に接触する機会を少なくすれば、被害を軽減することができると思われます。



（写真1）キロドネラ



（写真2）トリコジナ



（写真3）白点虫



（写真）ギロダクチルス



青森県のこれからの内水面養殖漁業

—新しいスペシャル種苗の期待—

青森県養鱒協会 会長 平藤 健悦



青森県養鱒協会は、県内養殖マス類の生産者団体として設立40周年を迎えようとしています。ここ数年、会員数は増加傾向にあり、今年度も1名増えて現在14会員となっています。

県内の養鱒業者は、マスをおいしく、安全・安心な青森産マスとして丹精込めて育てています。

日銀の短観でも、景気回復の兆しがあるとのこと会員数だけではなく、消費も伸ばさないとはいけません。

最近、地域特産型のブランドマスが、業界活性化の切り札のように取り扱われ、注目を集めています。多くはバイオ技術を用いて作出されます。大型マスは、従来のマスとは一線を画すスペシャル・トラウトとして、全国各地で特産品化が進んでいます。消費者の評価も上々のようですが、我が県のスペシャル・トラウトと言え、海面養殖された大型ニジマス「海峡サーモン」があります。三方が海の青森らしい特産魚です。

我が県は、森林面積も河川数も全国有数。白神山地の世界遺産や十和田八幡平国立公園、津軽・下北国定公園には、清澄な淡水（フレッシュ・ウォーター）を湛えています。

青森県の澄んだ水で生まれ、青森県の清らかな水で私たちが手塩にかけたマスは、いわば「青森フレッシュ・ウォーター・サーモン」と呼べると思います。内水面研究所の試験事業で、内水面研究所の成長優良系ニジマスコロン魚と、ドナルドソンニジマス三倍体魚の成長比較試験を共同で行っています。将来、絶対不可欠となる淡水スペシャル・トラウトの創出に向けた試験です。伝統ある内水面研究所の優れた技術者たちが英知を結集させ作り出すスペシャルな種苗を大きな期待を持って、消費者とともに私たちは待ち望んでいます。

編集後記

8月第1週の日曜日に開催される奥入瀬川の清掃活動（奥入瀬川クリーン対策協議会主催）は、今年で26回を迎え、当研究所では、8年前から試験研究公開デーとして参画しています。8年前に当時の協議会の会長であった故大江 勉氏にこのイベントを利用して内水面研究所の公開デーを実施したい。については奥入瀬川河川敷のイベント会場の一部を使用させて欲しいとご自宅に相談に行ったことがあります。氏は快く承諾し、式典会場向かいの一番良い場所を提供してくれました。お陰様で、今では、すっかり内水面研究所の試験研究公開デーは、このイベントの中で定着し地元の方々との意見交換の場となっています。

奥入瀬川を愛し、奥入瀬川クリーン運動に尽力をされていた大江さんが懐かしく思い出されます。

内水面研究所は100年以上十和田市相坂で研究所を構えてきました。地元の人たちのこれまでの励みや支えの賜物と感謝しています。

これからも身近な研究機関でありたいと思っております。

昨年の奥入瀬川のサケ遡上は不漁でしたが、今年は再びたくさんのサケが戻ってきています。

奥入瀬川のサケマスの豊漁を奉った当研究所の施設内にある奥入瀬神社周辺の紅葉は今年特に色彩をはなっていました。（所長 尾坂 康）



奥入瀬神社（11月4日撮影）

8月から11月までの内水面研究所の主な行事

8月 2日	内水面研究所の試験研究公開デー（奥入瀬川河川敷）
3日	飯詰川魚道整備検討委員会（五所川原市）
4日	平成22年度新規重点事業予算担当者会議
4日	平成21年度さけます関係研究開発等推進特別部会
7日	馬淵川さけます増殖漁協第20回通常総会
12日	大学共同利用機関法人総合地球環境学研究所視察来所
12日	小川原湖漁協振興対策打合せ
17日	理事長との個別面談
18日	上北地域県民局予算新規事業打合せ
20日	青森県高等学校教育研究会水産部会視察来所
21日	第3回研究推進委員会
25日	平成21年度サクラマス増殖事業調査計画説明会
25日	平成21年度さけふ化放流事業調査計画説明会
25日	上北地域県民局平成22年度新規事業打合せ
25日	奥入瀬魚道検討委員会（十和田市）
26日	青森県魚類防疫検討会（十和田市）
28日	県産あゆ資源造成事業打合せ（鱒ヶ沢町）
28日	上北地域県民局「小川原湖食の魅力向上事業」勉強会
9月 1日	馬淵川さけます増殖漁協役員来所
3-4日	平成21年度全国湖沼河川研究会（第82回大会）（岐阜県）
8日	本州鮭鱒ブロック協議会サクラマス資源造成分科会（山形市）
10日	サケ学習会（東通村）
11日	全国シジミ資源研究会（鳥取県）
14日	茨城県大瀬沼漁協来所視察
17日	平成22年度上北地域県民局事業打合せ
18日	青森県愛魚週間に係る打合せ
18日	日本海さけふ化場協議会・さけふ化放流事業研修会
18日	上北地域県民局「小川原湖食の魅力向上事業」勉強会
18日	地球温暖化対策推進事業に係る打合せ
25日	小川原湖シジミ振興対策打合せ
30日	小川原湖漁場環境保全研究会（上北町）
10月 1日	愛魚週間打合せ、野内川魚道調査
2日	北三沢地区再生構想事業打合せ
8日	第45回青森県愛魚週間ヤマメ放流式立会（野内川）
14日	北三沢地区再生構想事業現地調査（三沢市）
19日	水産総合研究所所内研究報告会（平内町）
26日	平成21年度「青森県豊かな海づくり大会」（青森市）
27日	十和田湖公民館事業「歴史と文化の学習」施設見学
27日	第2回研究推進会議
29日	平成22年度上北地域県民局事業打合せ
29日	平成21年度農業農村工学会東北学会東北支部研究発表会
11月 4日	馬淵川大堤魚道検討委員会（八戸市）
4-5日	東北・北海道内水面魚類防疫地域合同検討会及び魚類防疫士連絡協議会東北ブロック研修会（山形県）
5日	小川原湖漁業振興打ち合わせ
10日	魚類防疫体制整備事業北部日本海ブロック地域合同検討会
10日	第12回全国食用鯉品評会（山形県）
12日	平成22年度全国水産試験場長会会長賞審査委員会（鳥取県）
12-13日	平成21年度全国水産試験場長会第4回役員会（鳥取県）
18日	十和田市立中学校生徒による職場体験
20日	平成21年度内水面研究所所内研究報告会
25日	平成22年度元気なあおもりづくり支援事業ヒアリング
27日	平成22年度事業財政課ヒアリング
30日	平成21年度メンタルヘルス研修会
30-1日	平成21年度魚病症例研究会（三重県伊勢市）